
夏慈雨

貂寡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏慈雨

【ZIPアーカイブ】

N2074D

【作者名】

貂寧

【あらすじ】

謙と鎮奈のはかない一週間の不思議な関係。俺の物だからな・・・
鎮奈・・・

「俺の物になれ・・・」そうこうして鎮奈を抱きしめる。

強引な手だから鎮奈は、いやつて言つだらう・・・

いいさ、嫌われても・・・その覚悟は、できている・・・

「いいよ・・・」

予期もしていないような返事が返つてくる

「えつ・・・いいの・・・か・・・・」

とまどりう・・・

鎮奈のぬくもりが、俺の胸に伝わって・・・鎮奈の鼓動が、俺の鼓動と交わっていく・・・

「そんなこと言つてると、いやになっちゃう・・・」なんだかそういうわれると、俺の心が揺れ動く

「でも・・・本当にいいのか・・・?」

一度、教室が静かになる・・・遠くでヒグラシが夜を呼び、夕焼けは静かに燃え尽きていく

「いいんだから・・・」

その言葉を聞くと俺は、鎮奈の唇に唇を重ねた・・・。

そうこの日から

俺、夜舞謙と夕麻鎮奈の歩みは、始まったのか・・・?

私は、今日謙に呼び出された・・・何か用事があるらしい・・・
だけど、どう付き合つていいいのかわからなかつた・・・
今までに、まともな付き合いをした覚えがない・・・
長くて1・2週間ぐらいの物だ・・・

だけど謙から告白されたときは、本当にうれしかった。
だって前から気になっていたんだし・・・

だから謙を受け入れた。

彼の家に行く、謙も私も一人暮らしだった。だけど、ほとんど彼の家に行く事が多い・・・

まだ告白されてから1週間立っていない・・・
だけどちょくちょく謙の家に遊びに行く・・・
こんなに行つてもいいのかな・・・?

俺は、鎮奈を待っている・・・今は、夏休み・・・遊び放題・・・
と言つてもそれは小中学生の考え方、高校に入つてからは勉強に忙しい・・・

出入り口の前で鎮奈が来るのを金魚を見ながら待つ・・・
金魚は俺を見ることなく鉢の中を回る・・・
金魚にとって鉢の中が彼の世界、

俺が生きているこの世界は他の物から見たらちつぽけな世界なんだ
ろつか・・・

もつすぐ謙の家に着く駅からそんなに歩かないで、着く位置にある・

・・

俺は、今日鎮奈に色々と話さなくてわならない・・・

“・・・チャイムが鳴る・・・”

すぐに玄関を開けずに少し間を開ける・・・鎖奈に待つていたと想わせないようこと・・・

チャイムを鳴らしたのにまだ出てきてくれない・・・なんだか虚められてるみたい・・・寂しいよ・・・

ゆっくりドアを開ける・・・鎖奈はとこりと座り込んで泣きべそをかいていた・・・

「どうしたんだよ・・・」少しどまびこながら囁つ・・・
「だって・・・チャイム鳴らしても・・・なかなか謙・・出でてきてくれないんだもん・・寂しかったよ・・・」

そういうと鎖奈は、もつと落ち込んだ・・・

「まあ入りな・・・いつものソファーで待つてひ・・・」

鎖奈は、立ち上がりゆっくりと落ち込みながら・・・中に入る・・・

いつものソファーはリビングの北向きの窓の側に置いてある白のソファーで、いつも謙の家に行くとそこに座る・・・

麦茶が入ったコップを一つ載せた盆をもつてソファーの側に行くソファーのそばには、小さなテーブルがありそこに麦茶を置いて

ソファーに座る・・・

鎮奈が話しかけてくる

「何で、すぐ玄関・・・あけてくれなかつたの・・?」

少し間をおいて・・・笑顔で言つ

「何でかつて・・それはおまえを虚めたかつたから・・・だつてお

まえは俺の物なんだから」

それを聞いた鎮奈は、少し悲しそうな顔をした・・・。
ちょっと言い過ぎたかな・・・

しかし、その顔を見ていると鎮奈はだんだんともつと悲痛な顔にな
つてきた。

仕方がないから頭をなでる・・・少し気分が晴れたのか、なきべそ
から立ち直るその顔を見ているとなぜか抱き締めたくなつた・・・

そして、鎮奈を抱き締める・・・

鎮奈がどんな顔をしているのか分からないがたぶんキヨトンとして
いるんだろう・・・

その鎮奈を抱き締めたまま耳元でさわやく

「おいで何時でも、俺はお前の物・・・お前は俺の物なんだから・・
・」

そういうと鎮奈は鼻をすすつた。

その音が可愛いのでたまらずに鎮奈の唇に俺の唇を重ねた・・・

空を飛行機が音をたてながら進んでいく

私は、謙が言つてくれた数々のことばを噛み締めながら甘い唇に甘える

俺は、鎮奈の甘い唇にすがつていた・・・

唇に甘える鎮奈をもつと抱き締める・・・

唇から唇を放して

すこし鎮奈の髪を触るそりわらじでいに匂いがする・・・

「鎮奈、俺の物だからな・・・」ちよつと意地悪っぽく言つ・・・

すると鎮奈は、言つた

「あのね、私好きな人ができるんだ・・・」

その言葉に笑いが出る・・・

「嘘だろ・・・お前は、俺の物じゃなかつたのか・・・」

謙は、泣いていた。

「どうして泣いてるの？私は、あなたの物よ。ただ私の物にしたい
女がいて・・・手を切ろうって言つているんじゃないの、ただ知つ
ておいて欲しかつたの・・・私は、どっちでもいける男だつて言う
ことを・・・」

俺は大好きな鎮奈が俺から離れていくみたいで悲しかつた・・・
もう俺の物じゃなくなつてしまつた、絶望とヒグラシの泣き声が心
に響いて消えていった・・・

(後書き)

本当に変ですみませんB-L系を初めて書きました・・・色々と評価してください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2074d/>

夏慈雨

2010年12月19日02時48分発行